

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立飯能南高等学校)

目指す学校像	校訓「礼儀・誠実・協力」のもと、スポーツや文化的活動と勉学に励む元気で人間性豊かな生徒を育てる、地域に信頼される学校
--------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	<p>①授業改善や学習評価の改善等を進め、基礎学力の定着と向上及び主体的に学ぶ力を伸長する。</p> <p>②きめ細かな生徒指導と体験的な活動やスポーツ活動等を充実させ、礼節と自主性・自律性を備えた豊かな心を育む。</p> <p>③計画的な進路指導を充実させ、早い段階から進路意識をつけさせるとともに、主体的に進路実現が果たせる力を育成する。</p> <p>④保護者・地域との連携・協力を積極的に進め、学校情報を広く発信する。</p>
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	9名

学 校 自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価				
年 度 目 標		年 度 評 価		年 度 評 価				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	基礎学力不足のため授業を十分に理解できない生徒と進学希望の生徒が混在している。学力差が大きい。個に応じた学習指導が必要である。	●基礎学力の定着・向上と学習習慣を確立するよう改善する	①教科担当・担任が連携し、予習・復習、小テストの実施等により学習習慣の確立に向けた働きかけを組織的に行う。 ②学習サポーターシステムの活用、各教科での小テスト実施等により基礎学力の定着を図る。 ③生徒への学習アンケートを年2回実施し、授業への取り組み状況を把握、担任・教科へフィードバックし個別指導に生かす。	①組織的な働きかけがなされ、家庭学習時間が増加したか。 ②昨年度より学期毎の欠点保有者数は減少したか。 ③学習アンケートより授業への取組を把握し、指導に生かされたか。	当初の目標はほぼ達成できた。 ①予習・復習、小テストの実施等により学習習慣の確立に向けた働きかけを組織的に行い微増した。 ②昨年度より学期毎の欠点保有者数はわずかだが減少した。 ③学習やアンケートより、生徒の授業への取り組み状況を把握、担任・教科へフィードバックした。	A	①学習習慣の確立に教科担当・担任の更なる連携を強めて臨む。 ②欠点保有者を減らす。各学期の優良者が増加するよう更なる授業改善や補習をおこない、家庭学習の機会を増やすよう働きかける。 ③学習アンケートの更なる有効活用を促し個別指導に生かす。	・基礎学力の定着のために家庭学習の時間をどうやって増やすかが課題。 ・アンケートの項目に理想の授業とはと問う項目があるのは良い。一部をより生徒の心情に合わせた項目に改定を。 ・継続的な目的意識が設定できる学習環境を整えることで積極的な学習意欲向上につながるのではないかと。
	次期学習指導要領に向け授業改善の取り組みを職員共通理解のもとに進める。校務支援システム導入初年度につき、校内環境を整える必要がある。	●協調学習を含めた授業改善における各教科での取り組みの共有化を図る	①公開授業を実施し授業改善の取組を共有する。 ②カリキュラムマネジメント、新学習指導要領の研修会を開く。 ③校務支援システムの講習会実施と内規の整備を進める。	①新しい学びに関する意識が高まったか。 ②新教育課程編成に向けた理解が深まったか。 ③内規が整備され、日常の校務支援システムの円滑な運用が進んだか。	当初の目標はほぼ達成できた。 ①公開授業や授業参観により授業改善の取組を共有した。 ②カリキュラムマネジメント・新学習指導要領について研修会を開催(7・8・11月)新しい学びへの意識を高めた。 ③校務支援システムを全学年で導入し、運用を軌道に乗せた。昨年度までの保存年限を過ぎた公簿書類等を整理した。	A	①次年度も公開授業や授業参観等を進んでおこない取組事例や成果を共有し指導力向上に繋げる。 ②協調学習を含めた授業改善に繋がる研修会を開くことで新しい学びに関する意識を高め、実践に結びつける。 ③校務支援システムの更なる円滑な運用を進める。	
2	全職員による積極的な生徒指導により服装の乱れは減り行動に落ち着きが出てきていた。しかし、昨年度は問題行動が増え一部の生徒のモラルの低下が見られた。また、交通ルールや乗車マナーの苦情もある。本校の生徒として、地域社会との繋がりを意識させた上で、基本的な生活習慣の定着を確かなものとし、生徒の規範意識を向上させる必要がある。 学校規模縮小を踏まえた部活動数の検討が必要である。	●生徒の自主自立の精神を重んじ基本的な生活習慣の確立を徹底し、公共性、規範意識、豊かな心を育成する	①朝の校門指導や挨拶指導を徹底する。 ②登下校時の巡回指導で重点的に自転車乗車マナーの指導を行う。 ③授業を受ける態勢の習慣を身に付けさせる。 ④全教員共通理解のもと、徹底した整容指導を行う。 ⑤ネット社会における規範意識育成の研修会をはじめ、生徒指導に関する研修会は保護者・生徒同時参加で実施する。	①登校する生徒への声掛けを行い、生徒からの挨拶を促しているか。 ②交通マナーに関する苦情件数は減少したか。 ③授業環境は整えられているか。 ④教員の声掛けが浸透しているか。 ⑤保護者の研修会への参加はあったか。諸課題に対する保護者の意識は高まったか。	当初の目標はほぼ達成できた。 ①1年を通して、毎日複数の教員で協力し、挨拶指導を行った。 ②毎朝通学路に教員が立ち交通マナーの改善を促したため減少した。 ③チャイム着席の指導を学年主導で行った。 ④多くの教員の整容指導で生徒の意識は改善の傾向にある。 ⑤生徒の意識は一部高まったが、保護者の参加は少なかつた。	A	①全教員が挨拶指導に加え、交通指導、整容指導も兼ねながら行うようにする。 ②HR や集会を通じて、自転車マナーについて指導を続ける。 ③チャイム着席の意識がクラスごとに差があるため、巡回の教員や授業担当の教員で積極的に声をかけるようにする。 ④どの教員も指導できるよう整容に関する生徒情報を共有する。 ⑤早めに書面やメールで通知をする。	・自転車マナーは今年に入り確実に向上している。今後も指導をお願いしたい。 ・最寄り駅の開発要望を出してある。学校内だけでなく学校外の環境を良くすることも大切と考える。 ・大人でも人間関係作りがうまく出来ない人が増えた。高校生の時からボランティア活動等で異なる年齢の方と接することで人間関係作りが出来る場を設定すると良いと思う。
		●学校行事・部活動などに積極的に参加・運営に関わる生徒を育成する	①各行事を生徒主体で実施できるよう明解な実施要項を作成し、生徒・教員への周知徹底を図る。 ②教員数の減少に伴う部活動統廃合について、本校の実態に即した方針・規程を策定し、円滑に運用する。	①生徒の行事実施満足度は高かったか。 ②統廃合についての方針・規程が策定され教員の共通認識のもとに運用されているか。	当初の目標はほぼ達成できた。 ①文化祭生徒アンケートでは9割を超える生徒が満足していた。 ②方針・規程を策定し、統廃合とする部活動を決定した。	A	①文化祭における教員の業務の煩雑さを解消する必要がある。 ②存続する部活動については、生徒が意欲的に取り組めるよう、きめ細かな指導を行う。	・部活動を簡単に諦めない心、忍耐力を持たせることが大切。普通科とスポーツコースの生徒間のコミュニケーションの場があると良い。
3	将来への展望や目的意識を十分に持たず入学してくる生徒が、少なからず見られる。充実した高校生活を送らせるために、目的意識を持たせる指導が必要である。 就職希望者が昨年の2倍近くと多い。保護者も含めた進路意識の醸成が必要である。	●進路指導の組織的な取り組みを充実する ●進路意識を向上させ、希望の実現を図る	①年間計画を綿密に立て、計画的・継続的かつ組織的に実施する。 ②外部講師等との連携を密にするとともに、各担任が個々の生徒に適切な指導ができるように、研修会や学年会等を通して具体的に伝える工夫をする。	①年間計画に基づく進路指導は実施できたか。 ②適切な進路選択ができたか。就職内定状況は良好か。	当初の目標はほぼ達成できた。 ①年間計画に基づき実施できた。前年度までの受験報告書等も活用できた。 ②外部講師による模擬面接会は、大変効果的なものとなった。就職希望者は増えたが、100%内定した。	A	①進路ガイダンス・進路見学会、面接指導(就職・進学ともに)は継続する必要がある。今後、変化する入試制度に対応する準備が必要である。 ②外部講師との連携を密にし、きめ細かな就職指導を行う。	・度重なるガイダンスを受けてもなお社会の現実とのギャップを受け入れるのに時間のかかる生徒もいる。 ・就職に対するガイダンスに時期尚早は無いら。進学者であつてもいずれは就職する。パソコン実務のスキルは確かに大事であるが、その表現力を養うのが部活動や行事等の学校生活の様々な経験であり、大切にしたい。
		●学校の情報を迅速にわかりやすく発信する	①必要な方に必要な情報をわかりやすく提供できるように、ホームページへの掲載方法・内容を工夫する。 ②中学校訪問・学校説明会・部活動体験の時期を見直し実施回数を増やす。 ③飯能市内中高との連携・相互交流を更に強化し、公開授業、出前授業・上級学校訪問(本校事務局)を円滑に実施する。	①ホームページの構成を変更できたか。また、アクセス数が増加したか。 ②昨年度より参加者数が増加したか。 ③中学生及び中学校の先生方の満足は得られたか。	当初の目標はほぼ達成できた。 ①ホームページをスマホに対応する等工夫、随時更新し、必要な新情報を載せることで、アクセス数も増加した。 ②中学生・保護者・中学教諭の求めている情報を的確に伝える努力と内容・時期の見直し実施回数増により参加者と再来者が増加した。仕事をマニュアル化し誰もが取り組めるようにした。 ③中学校の生徒や先生方に満足していただける取り組みができた。	A	①本校のPR情報と求められている情報を速やかに提供する。 ②各取り組みの実施時期等を勘案し、より有効な生徒募集の手立てを工夫する。 ③市内中高との更なる連携を強化し有意義な内容で、円滑に実施する。	・写真での紹介は広報だけでなくPTA活動や交通指導なども載せてほしい。 ・携帯メールの配信方法の工夫やホームページの更新頻度の改善を。 ・地域の交流事業への地元大学生の参加の事例をヒントに飯南生にも参加を期待したい。
4	今年度募集人員を減らしたが定員を満たせなかった。このため普通科・スポーツコースの取組を積極的に発信し、教育活動への理解を深め、生徒募集に繋げる必要がある。 PTA各種委員会の活性化を図り、保護者と教職員の強力な共同体性の構築を行う。	●本校の教育活動への関心を高め、PTA活動の参加者の増加をはかる	①『飯南フォーラム』において保護者を対象に外部講師を招いての講演会を実施する。 ②積極的なメール配信により、学校の情報提供を行う。 ③各種委員会活動で保護者、教員だけでなく生徒との協同作業を働きかける。	①参加した保護者の満足度は高かったか。 ②適切にメール配信による情報提供ができていたか(アンケート調査による)。 ③各種委員会活動において生徒の参加協力体制ができたか。	当初の目標はほぼ達成できた。 ①飯南フォーラム参加者の満足度は高かった。 ②学校行事や委員会活動の内容等をメール配信を利用して積極的に行うことができた。 ③生徒の委員会活動の参加についてはおおむね達成できた。	A	①多くの保護者に参加してもらうための工夫と情報提供に努める。 ②メール登録のメリットをPRしていくことによって登録者を増やす。 ③多くの委員会に参加できるよう配慮する。	・市内中高連携の取り組みにおいて本校の特徴をもっとアピールするべき。